



木曾岬小学校だより



令和6(2024)年度 学力・学習状況調査結果 第2弾：児童質問紙及び総括

2024年10月4日

児童質問紙

※生活習慣や学習習慣に関するアンケート調査です。例年、異なる項目もありますので、今年度の6年生に対する設問・結果とご理解ください。

【国や県の調査結果と±5ポイント以上の違いが見られた設問】◎：+5 △：-5

- ◎毎朝、朝食を食べている。
- ◎毎日、同じ時間に起きている。
- ◎普段、テレビゲーム等は2時間以内。
- ◎自分にはよいところがある。
- ◎先生がよいところを認めてくれる。
- ◎5年生までに、ICT機器を週3回以上活用している。
- ◎楽しみながら学習を進めた。
- ◎発表の際、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していた。
- ◎話し合う活動を通じて、自分の考えを深めることができた。
- ◎授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考える。
- ◎先生は分かるまで教えてくれる。
- ◎友だちや周りの人の考えを大切に、協力しながら学ぶ。
- ◎国語は好き。
- ◎国語は大切。
- ◎国語の授業はよく分かる。
- ◎国語で、話すための材料をまとめたり、分けたりして伝える内容を考える。
- ◎算数は好き。
- ◎算数は大切。
- ◎算数で学習したことを、今後の学習で活用する。



- △約束を守る。
- △不安を先生や学校にいる大人に相談できる。
- △友人関係に満足している。
- △生活の中で幸せな気持ちになる。
- △学校の授業時間以外、普段(月～金)1日当たり1時間以上学習する。
- △学校の授業時間以外で、普段(月～金)全くしない。

- △学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強している。
- △分からなかった時には、すぐに調べている。
- △画像や動画、音声を活用することで学習内容がよく分かる。
- △教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめた。
- △学級会で話し合い、解決方法を決めている。
- △算数の問題が解けた時、別の解き方を考える。
- △理科に関する疑問を持ったり、問題を見い出したりする。
- △理科で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる。
- △英語は好き。
- △算数：言葉や数、式を使って書く問題：解答しなかったり、途中であきらめたりした。



児童質問紙から見えてきたこと…

児童質問紙は、基本的な生活習慣や学習習慣に加え、時代の変化に伴う課題に対して、その傾向を把握するために実施されることから、例年通りの設問もあり

ますが、様々な状況を踏まえて、新たな設問が示されたり、削除されたりしています。

そこで、今年度の児童質問紙の内容について、全国的な傾向と本校の傾向を比較するなどして、6年生の現状や課題を整理しました（実際には、個々に異なる実態があることをご了知ください）。これまで通り、基本的な生活習慣については、全体的に定着がみられました。また、ICTの利活用についても日常的に行われていると感じているようです。今年度は、加えて、自己肯定感、国語や算数の学習に対する意欲で高い傾向がみられました。家庭でのテレビゲーム等の時間も2時間以内という回答について、国や県よりも高い傾向がみられました。

一方、家庭学習（普段・休日ともに）等に課題が見られました。今年度は、家庭での読書時間の設問はありませんでしたが、「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という設問（複数選択可）がありました。その中で、「家で勉強や読書をしている」という回答は国や県に比べて低い傾向がみられ、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」という回答は国や県に比べて高い傾向がみられました。

また、「新聞を読んでいるか」という設問がありましたが、「ほとんど、または、全く読まない」という回答が国や県に比べて高い傾向がみられるとともに、「家にある本は、0～10冊」という回答も高い傾向がみられました。

このようなことから、多くは基本的な生活習慣が身に付いているという傾向にあり、健康的な心身の成長のためにも大切にしていきたいと思えます。また、本町のICT機器の先進的な導入により、子どもたちのICT機器の利活用が進んでいることは確かで、これからの時代を生きていくうえでとても心強いことと感じています。

しかしながら、学校の教育活動だけでは心身の健全な成長を育むことはできません。家庭学習や読書による自発的な学びがこれからの時代は重要となります。地球規模での課題（答えのない課題）に取り組んでいく時代の中で、国語・算数だけではなく、理科や英語など他教科・領域にも興味や関心を持って学んでいく姿勢を育てていく必要があります。

学校では、小学6年生で、どのような力（生きる力：①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力、③学びに向かう力、人間性）を身に付けておくよいか。そのため、各学年でどのような教育活動を経験し、学んでいくことが大事なのかを「主体的で対話的な深い学び」を通じて育む教育実践に繋がりたいと思えます。

きそリズムなど従来の取組に加えて、令和4（2022）年度から教育委員会とともに取り組みを始めた「夢に向かってがんばる木曾岬っ子」応援キャンペーンの取組により、一人ひとりが、自分の将来への夢や目標を持つことで、これからどのように生きていきたいか、自分と向き合い、学習に向かう力を高め、人の話を聴いたり、読書したりすることで、より豊かな人間性を育み、素敵な大人に成長してほしいと願います。

私たち周りの大人も、その夢や目標を共有することで、的確なアドバイスを考え、家庭や地域での会話にも繋がるのではないか、学習に向かう力を支えることになるのでは…と思えます。



総括

- 全体的に無回答率は低く、前向きに学習に取り組むことができています。
- これまでに実施された学力・学習状況に関する調査結果も踏まえて確実に生きる力を身に付けつつあります。

【国語】今年度の物語文の問いに見られるような国語の力が求められています。内容を読み取る力、条件に合わせて文を書く力、自分の考えを持ち、文章で表現する力などについて生活経験に結び付けて実感をもって身に付けていけるよう、指導改善に努めていきたいと考えます。現在も取り組んできていることですが、まずは、読書習慣を身に付けて、文章を読むことへの抵抗をなくしていくこととともに、朝読書、図書まつり、読書登山など取組も大切にしながら、家庭・地域と協働して、読書活動の推進に努めていきたいと思えます。今年度は、学校運営協議会委員の方からの提案を基に、PTAでしおりの作成を行うことで、親子読書の取組を進めていくこととしました（チラシ配布）。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【算数】基本的な四則計算・立式はできています。今年度は空間図形の認知、データの活用の分野において課題が見られました。コグトレでの認知力の向上、そして、算数だけでなく、様々な教科・領域の学習を通じて資料の活用、分析、まとめといった経験を積むことで、データ活用に自信を持って取り組めるような指導改善に努めていきたいと思えます。



どの教科・領域においても、忘れていところや苦手なところは個々に異なります。国語・算数については、自分の課題となる内容を ICT 機器の活用で復習し、コグトレを活用して認知力・対人力等の向上に努めます。加えて、後半は、自発的な学習「なぜを探究する学習」を促す工夫に努めていきたいと思ひます。

そして、3年目を迎える「夢に向かってがんばる木曾岬っ子応援キャンペーン」の取組と連動し、一人ひとりが自分の将来の夢や目標に向かってがんばっていくためにも、多くの人や本との出会いを通じて、経験を積み重ねていくことの重要性について、対話を通じて伝えていきたいと思ひます。

今年度は、児童質問紙に『将来、積極的に英語を使うような生活をしていたり職業に就いたりしたい』という設問はありませんでしたが、この指標はある意味で重要だと感じています。児童質問紙で、「英語は大切」という回答は国や県と同様の値ですが、「英語が好き」という回答は国や県に比べて低い傾向がみられました。その要因を探るとともに、指導改善に取り組んでいく必要を感じています。本校に通う外国につながるのちたちとの対話で重要なファクターとなる場合があります。国際的な感覚を身に付けて、将来の自分を考える姿を大切にしていきたいと思ひます。また、地球温暖化（沸騰化）をいかに食

い止めるのかなど、SDGs の取組への関心も高め、国際人として成長していつてほしいな…とも願っています。

昨年度もお伝えしましたが、多くの体験や読書をしている人（学習習慣が身に付いている人）ほど、学力が身についているという傾向があります。子どもたちの「学びに向かう力」を育み、読書活動の推進を図ることで、学力向上に繋げていきたいと思ひます。

令和元年度より、新しい学習指導要領が実施され、その傾向がいくつか設問に出されるようになってきています。学習評価の観点は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度です。

調査内容（設問）は、基礎的な事項を基に、情報を整理して思考・判断して、他者（出題者）が意図することを推察し、自分の考えをまとめて表現する力を問うようになってきています。

したがって、文章や資料を適切に読み取り、論理的に整理してまとめるなど、根拠となる事柄を基に、自分の思考力を駆使し適切な判断で自分の意見をまとめられるような力を身に付けること、粘り強く学びに向かう力（意欲）が求められています。

学習状況調査では、これまで通りの基本的な生活習慣や学習習慣、ICT 教育との関わり、国語力等教科の学習意欲に関する設問に加えて、今年度は、人間関係やウェルビーイング（幸せ度）に関する設問がみられました。

繰り返しになりますが、まずは、基礎・基本となる知識・技能の定着を図ることが重要です。定着という点では、何度も繰り返し学び直しできる ICT 機器の有効な利活用の工夫に努めます。また、学びに向かう力の向上という点も重要であると考えますので、コグトレの活用にも努めます。いづれも生活

習慣や学習習慣と密接なつながりがあります。各学年の発達段階に応じた学習の系統性も踏まえ、家庭との連携を図りつつ、教育活動の充実、指導改善に取り組んでいきたいと思ひます。

教育活動（教科・領域の学習）等を通じて、原因・結果の分析、情報の関係を整理する力、文章から関係性を捉える力など、まとめて発信するといった学習の機会も大切にしていきたいと考えます。

文章を読み要約して記述する力を身に付け、条件に合わせて文を書く、まとめる力、さらには、必要な条件を踏まえて文章にまとめたり、発表したりする力も高めていく指導の工夫にも努めていきたいと考えています。

（情報を収集し、要約してまとめたり、発信したりする力の育成）

そのためにも、文章を読んで、内容の中心となる語や文を読み取る力、文章と図表を結び付けるなどして、必要な情報を取捨選択、整理、再構築する経験を発達段階に応じて提供できるよう、指導改善に努めていきたいと思ひます。



今後も「家庭・地域とともに生きる力をそなえた木曾岬っ子」を育むための学校運営にご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

細かい字で、多くの内容を詰め込んだ文章となり大変読みづらい学校だよりとなりましたことをお許しください。

算数 5 身の回りの事象を目的に応じて表やグラフを用いて考察すること (桜の開花予想)

5

こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(2) こうたさんは、同じ地域に住んでいるよしださんと、桜の開花日が何月だったかについて話しています。



私たちの住んでいるC市では、最近では、開花日が3月であることが多いと感じています。しかし、私が子どもだった1960年代は、開花日が4月であることが多かったと思います。

1960年代とは、1960年から1969年までの10年間のことです。こうたさんは、よしださんのお話を聞いて、1960年代では、3月と4月のどちらで開花日が多かったかについて、興味をもちました。そこで、1960年代の開花日について、インターネットで調べ、右の表に整理しました。右の表をもとにして、1960年代のC市では、開花日が3月だった年と4月だった年が、それぞれ何回あったかについて、下の表にまとめます。

C市の開花日の月別の回数 (1960年代)

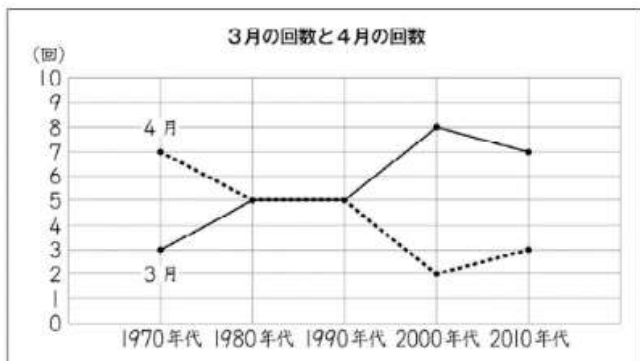
開花日の月	回数(回)
3月	㊷
4月	㊸

上の表の中の㊷、㊸にあてはまる数を書きましょう。

年	A市	B市	C市	D市
1960	3月28日	3月23日	3月28日	3月29日
1961	4月1日	3月31日	4月3日	4月1日
1962	4月2日	3月30日	4月6日	4月5日
1963	4月4日	4月2日	4月6日	4月5日
1964	4月4日	4月2日	4月5日	4月3日
1965	4月8日	4月2日	4月12日	4月13日
1966	3月25日	3月26日	3月26日	3月29日
1967	3月31日	3月29日	3月30日	4月1日
1968	3月31日	4月2日	4月4日	4月4日
1969	4月4日	4月5日	4月8日	4月9日

(気象庁ホームページをもとに作成。)

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

解答 5 (1) 省略
5 (2) ㊷ 3 ㊸ 7
5 (3) 解答例: 3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月と4月の回数のちがいは6回です。